

## 史跡岡山城跡本丸下の段

発掘調査現地説明会 資料

## 岡山市教育委員会

日時：平成20年3月1日（土）13:30～

場所：岡山市丸の内2丁目地内（史跡岡山城跡）

## はじめに

岡山市教育委員会では史跡岡山城跡の保存整備事業のひとつとして、平成19年10月から本丸下の段（テニスコート跡地）の発掘調査を行ってきました。このたび調査がほぼ終了したため、みつかった遺構や遺物を公開することとなりました。

## 調査成果の概要

今回の調査の目的は、昨年度（平成18年度）検出した遺構の広がりを確認することでした。元禄13（1700）年に作成された『御城内御絵図』<sup>おんじょうないおんえず</sup>によると、今回の調査範囲からは「蔵」と「役宅住居」<sup>やくたくじゅうきよ</sup>および、井戸が見つかる予想されました。

調査の結果、『御城内御絵図』に記されている建物2棟の基礎および井戸を1基確認しました。これらの遺構は幕末まで利用されていたようです。また、宇喜多～前期池田時代（戦国時代末～江戸時代初期）にさかのぼる可能性のある生活面と曲輪<sup>くるわ</sup>の一部を確認しました。

出土遺物は瓦・陶磁器などがたくさんみつけられました。その中でも、棹秤<sup>さおばかり</sup>の権（おもり）が注目されます。権はみつかることが少なく、県内で初めて見つかっためずらしい資料です。同じ形の権が、15～16世紀に栄えた福井県の一乗谷朝倉氏遺跡<sup>いちじょうたに</sup>でもみつかっています。

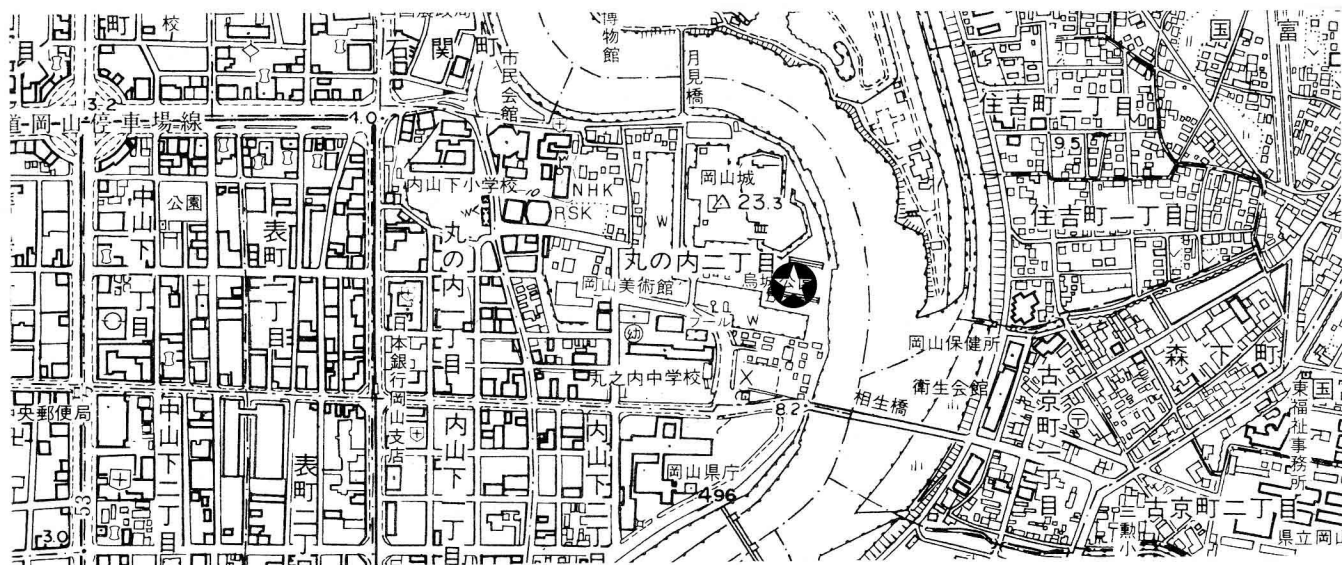


図1 遺跡位置図 (S=1/10000)

## 蔵

調査区の北半分で確認しました。基礎の石組みが残っていました。石組みは上下2段に重なっていることから、建て替えが一度行われているようです。

上の石組みは南北約28m、東西約8mの規模であることがわかりました。また、石組みの南西隅から、素焼きの壺が1個みつけられました。この南西隅は建物の裏鬼門になるため、蔵の建設の際、地鎮が行われたと考えられます。上の石組みの南東付近から絵図に描かれていない正体不明の石列が確認されました。この石列の一部は排水溝と考えられます。

下の石組みは南面の石組みが失われているため、南北の長さはわかりません。東西の幅は約9mです。

## 役宅住居

調査区の南半分で確認しました。役宅住居とは役人の詰め所と考えられる建物です。蔵と同様、基礎の石組みが残っていました。南北約18m、東西約7.5mの規模であることがわかりました。石組みには東西に飛び出た場所が2箇所あります。おそらく出入り口と考えられます。絵図に記された建物の形と、調査で実際に確認した建物の形が違うことから、この役宅住居でも建て替えが行われたと考えられます。

## 井戸

調査区の南端で確認しました。井戸は石組みで、口径80cm、深さ約4.5m以上あります。下に行くほどフラスコ状に広がっています。井戸からみつけた遺物は明治のものであることから、岡山城の廃絶までこの井戸は使用されていたと考えられます。

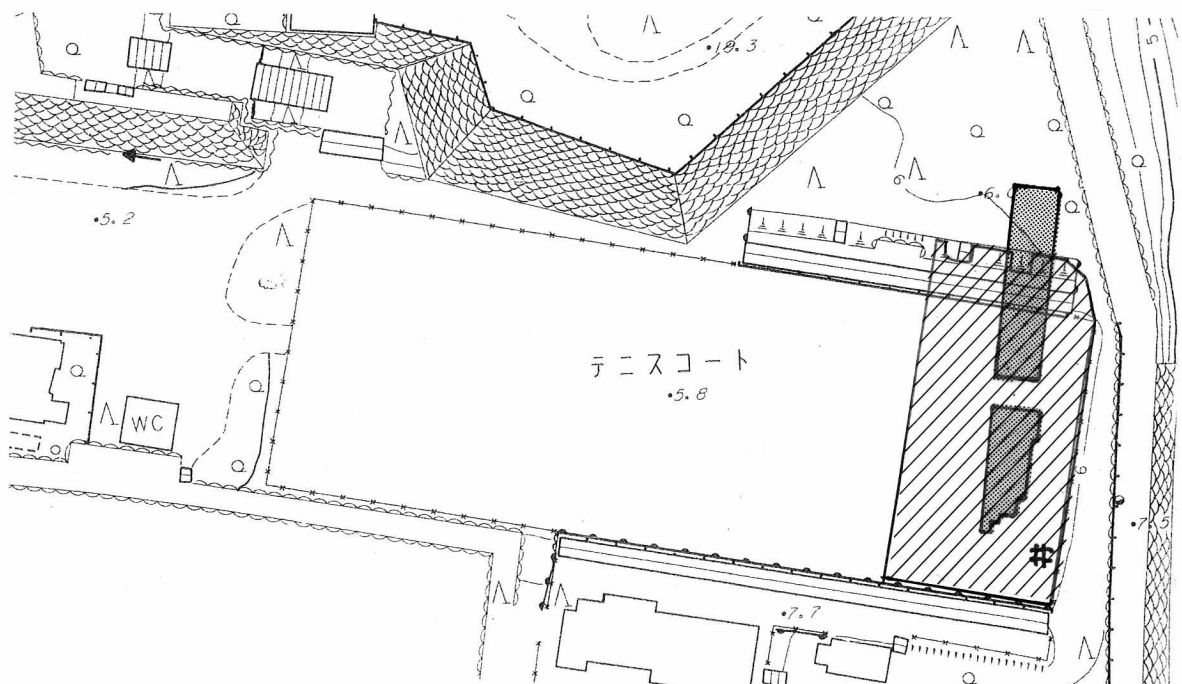


図2 調査区配置図 (S=1/1000) ※  は絵図に記された建物, 井は井戸を表す

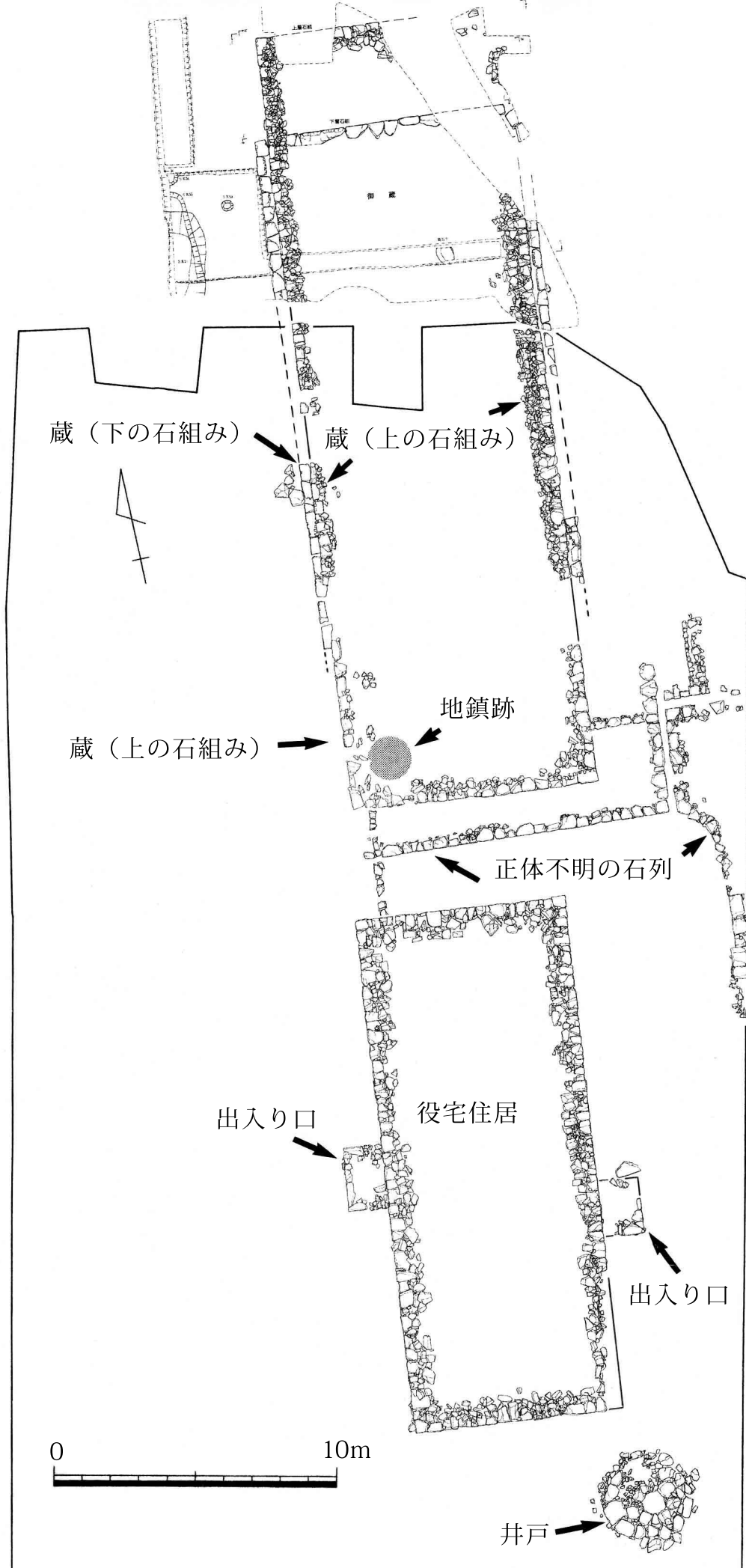


図3 調査区平面図 (S=1/200)

みつかった遺物



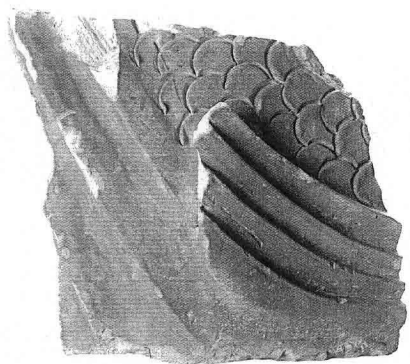
けん さおばかり  
権 (棹秤のおもり)



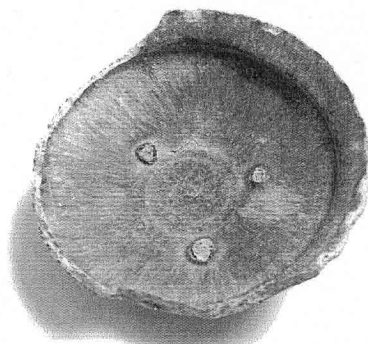
ごしちきりもん うき たけ かもん  
五七桐紋 (宇喜多家の家紋)



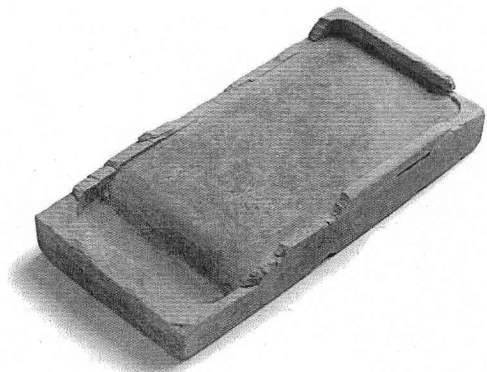
あげはちょうもん いけだけ かもん  
揚羽蝶文 (池田家の家紋)



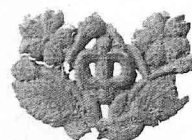
しやちほこ  
鯪



からつやき  
唐津焼



すずり  
硯



きゆうせいちゅうがく がくようひん  
旧制中学の学用品